

# 地域情報

## 札幌をアイスホッケー スポーツ都市に ～NPO法人札幌ポラリスの挑戦～

積雪寒冷、冷涼な気候、広大で変化に富んだ北海道は、ウインタースポーツ、アウトドアスポーツのメッカであり、さらにパークゴルフなどニュースポーツの発祥地、スポーツ合宿の適地として全国的にも注目されている。また、近年は、サッカーのコンサドーレ札幌、野球の日本ハムファイターズ札幌移転によるプロスポーツへの関心も高い。

しかし、北海道の特長を生かすウインタースポーツは、スキー・スケート人口の極端な減少とともに、1980年代後半以降はバブル崩壊による企業の文化・スポーツ支援縮小の影響を受けることとなる。アイスホッケーも例外ではなく、'01年廃部を余儀なくされた雪印アイスホッケー部を引き継ぐ企業はなく、クラブチームも1年で休部となる。そこで、アイスホッケーを愛する人々が札幌に伝統の火を残そうと集合し、'02年7月クラブチーム「イーガー・ビーバーズ」（後に「札幌ポラリス」と名称変更）を立ち上げた。'04年3月にはNPO法人として認証を受ける。これまでの経緯と課題、抱負について、牧泰昌理事長にお話をうかがった。

### アイスホッケー事情

昨年1～2月の、木村拓哉が実業団アイスホッケーチームのキャプテンを演じた月9ドラマ「プライド」のTV放映で、一時的にファンが増えたとはいいますが、アイスホッケーは日本ではかなりマイナーなイメージのスポーツです。

しかし、北米では野球、バスケットボール、アメリカンフットボールと並んで4大スポーツの一つに数えられる人気スポーツです。

アイスホッケーの頂点は北米プロアイスホッケーリーグNHL（National Hockey League）。全30チーム、1チーム84試合のレギュラーリーグ、そしてプレーオフ。その人気は日本のプロ野球の比ではなく、最大観客数21,000人のリンクがいつもほぼ満員という盛況を誇っています。

日本アイスホッケーリーグは、1966年（昭和41年）に5チーム（西武鉄道、王子製紙、古河電工、岩倉組、福德相互銀行）でスタートしました。'72年には福德相互銀行が廃部になりましたが、西武鉄道を分割して国土計画（現・コクド：本拠地＝横浜）を設立し、

チーム数が維持されました。'74年に十条製紙（現・日本製紙クレインズ：本拠地＝釧路）が加盟し、6チーム体制となりました。'79年には岩倉組が廃部となり、雪印（本拠地＝札幌）がチームをそのまま引き継ぐ形となりました。'99年には古河電工が廃部となりましたが、クラブチームHC日光アイスバックス（本拠地＝日光）が設立されチームを引き継ぎました。また、2001年には雪印が廃部となり、クラブチーム札幌ポラリスがチームを引き継ぎましたが、運営資金不足などからわずか1年で休部となり、'02年のシーズンは28年ぶりに5チームでのリーグとなったのです。さらに、'03年には西武鉄道が廃部となりコクドに一本化され、チーム数が4チームとなったため、国際リーグとしてアジアリーグが構想されました。

アジアリーグは、'03～04年シーズンに初開催され、北米・ヨーロッパに次ぐ第3の国際リーグとして、上記の国内4チームに韓国、ハルラウィニアを加えた5チームで、ホーム&アウェイ形式4回戦総当たりリーグ戦で行われ、日本製紙クレインズがアジアリーグ

初代チャンピオンに輝きました。

'04～05年シーズンは、上記チーム以外に中国の2チーム（チチハル、ハルビン）、ロシアの1チーム（ゴールデン・アムール）が参加し、合計8チームによる6回戦総当たりリーグ戦で開催され、コクトが優勝しました。

### 市民主体の「おらがチーム」が基本理念

'01年食中毒事件の影響で廃部を余儀なくされた雪印アイスホッケー部を引き継いだ、クラブチーム「札幌ポラリス」は、雪印の支援打ち切りにより1年で休部となりました。

このため、'03年7月、「札幌イーガー・ビーバーズ」が創設され、札幌アイスホッケー連盟に登録して再出発を果たし、'03年度のシーズンでは札幌選手権大会、北海道選手権大会に優勝、全日本選手権大会への出場権を確保し、ベスト8まで進みました。



2005全日本アイスホッケー選手権北海道予選

'03年12月にNPO法人化を申請し、'04年3月に認証を受けました。アイスホッケーチームとしては初めてのNPOスポーツ団体です。'04年8月には、法人名及びチーム名として、'01年の一般公募で採用されたクラブチーム「札幌ポラリス」の名を引き継ぎました。

札幌ポラリスの基本理念の一つは、ウィンタースポーツの代表ともいえるアイスホッケーを通じて、地域に根ざしたスポーツ文化の普及、振興を図り、ジュニアチームの活動や指導教室を通じ青少年の健全育成、社会教育活動の実践などスポーツ文化振興に努力すること。

もう一つは、地元の市民・企業が一体となって応援できるチームづくりを進め、わが町のチーム「おらがチーム」として市民と一体感を持って支えられ愛されるチームを目指すことです。

「札幌ポラリスは、ともに夢見、ともに闘

い、ともに感動する市民の、市民による、市民のためのアイスホッケーチームを目指して



牧理事長

います。あくまでも、市民が主体の地域のためのチームで、スポーツを通して地域に貢献したいという思いと自らを律するために、あえてNPO法人としました」と牧理事長は話します。

### プロリーグへの参戦を目指し

プロリーグへ本格的に参戦するためには、1シーズン3億円程度の資金が必要です。実業団時代は企業からの強力なバックアップで選手たちはプレーに専念できましたが、市民チームとなったことで、特に資金面で苦労しているといえます。

現在は大きなスポンサーがついていないことから、ボランティアスタッフが各企業へ出向き、ユニホーム等へのスポンサー契約の獲得に努力、また、一般の人たちへアシスト会員として協賛を呼びかけ、広告掲載や市民からのアシスト会費で年間600～800万円の活動資金を集めています。しかし、これでは、プロリーグへの参戦はもとより、普段の運営経費にも十分とはいえません。

資金面のほかに、練習場の問題もあります。雪印時代は厚別の屋内アイスホッケーリンクを練習場として使用していましたが、廃部になった翌年リンクを倉庫へ改修したため、専用のリンクがなくなってしまったのです。現在、札幌で練習のできるスケートリンクは、月寒体育館、星置スケートセンターの2カ所です。これは札幌市の施設ですが、札幌市内には大人から子供まで100以上のチームがあり、毎月利用抽選をして他のチームと持ち回りで使用するため、月に1～2回しかリンクを使用できません。また、練習日が決まっても、選手たちは仕事を持っているため、全員での練習がなかなかできないといえます。

実業団チームなら1本3万円のスティックもダースで支給されるのですが、ポラリスは1本だけです。ほかに支給されるのはユニホームぐらいで、防具や靴など、ゴールキーパーなら約50～60万円もする用具も全部選手

の負担なのです。こんな厳しい環境の中で選手がプレーし続けているのは、とにかくアイスホッケーが好きだからです。また、それをサポートする市民ボランティアも根っからのアイスホッケー好きなのです。

チームのさらなる飛躍には、安定的な運営資金の確保が最優先、不可欠な課題となっています。



試合後のサイン会

苫小牧（王子製紙）や釧路（日本製紙クレインズ）には実業団チームがあり、ジュニアチームがたくさんありますが、札幌では雪印がなくなったためジュニアチームが減少しています。また、苫小牧や釧路では、冬には学校のグラウンドがリンクになり、気軽にアイスホッケーをする環境があり、中学や高校の部活でもアイスホッケーが盛んで、地域に根ざしたスポーツとして普及しています。

それに対し、札幌の冬のスポーツはスキー&スノーボードが主流で、学校の授業もスキーです。部活にアイスホッケー部がある高校も一校だけです。子供のころから触れる機会がないというのは、どんなスポーツを普及させるためにも致命的なマイナスです。札幌では、学校のグラウンドや企業の土地にリンクをつくるのは簡単ではありません。仮にできたとしても、そこで子供たちにプレーさせるためには競技連盟の承認を得る必要があるといえます。

今は、現役の選手がジュニアチームのコーチとして指導をしていますが、こうした活動を続けていくことで、子供たちにアイスホッケーを好きになってもらい、少しでもプレーヤーやファンの底辺を広げていこうとしています。

### 札幌をアイスホッケースポーツ都市に！

「アイスホッケーはプレーして楽しいし、

観ていても面白いスポーツです。一度会場に足を運んでもらって試合を観戦していただけたら、こんな楽しいスポーツがあったんだと、感じると思います。特にあの迫力とスピードは、他のスポーツでは味わえません。NHLが大勢の観客を集める理由はそこにあると思います。ぜひ、札幌をアイスホッケー熱で盛り上げたい。そのためには、札幌で行われる小規模の大会にも積極的に参加して、少しでも多くの市民に札幌ポラリスを知ってもらうことが大切だと思っています」と牧理事長はいいいます。

ポラリスのホームページには、チーム目標として、トップリーグ、アジアリーグへの参戦を目指すことが堂々と掲げられています。

「それができれば、札幌の冬のスポーツとしての認知が進み、アイスホッケースポーツ都市のまちづくりができます。野球のボールパークのように盛んにしたいです。そのためには、最低条件として、市民が自由に練習できるアイスホッケーリンクが必要です」と切実に訴えていました。

サッカーのザスパ草津は、JFL時代に大きなスポンサーもなく資金面でも苦勞していました。そこで、地元の企業に試合と練習への参加を認めてもらったうえで選手を採用してもらい、チームを成長させ、J2に昇格しました。現在も地域に根ざしたチームとして成功しています。

チーム名「札幌ポラリス」の「ポラリス」は、北極星という意味です。北極星は天球の北極付近に位置する明るい星で、ほとんど位置を変えないことから北半球では方位を定めるときの指針とする星です。日本一を目指し、いつまでも明るく輝き続け、子供たちの目標となるチームとなることを願い命名したといえます。

札幌ポラリスが、地域に根ざしたチームとして、いつまでも強く明るい光を放ちながら輝き続け、トップリーグ、アジアリーグへの参戦が実現するようエールを送りたいと思います。



NPO法人札幌ポラリス

<http://www.sapporo-polaris.com/>